

— 古代^{むかし}を知ること、
— 現在^{いま}を知ること —

島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県は共同で
古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰します。

第3回

古代歴史文化賞

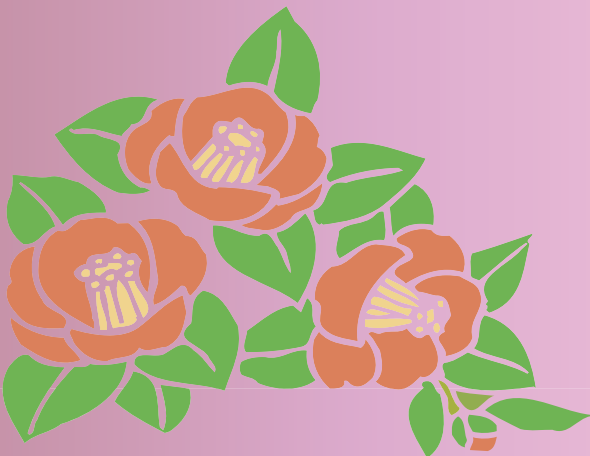
この賞は、最近発行された書籍のうち、
日本の古代世界を学術的基盤に立ちながら
一般読者にとってわかりやすく書かれたものを
対象としています。

■大賞一作品、優秀作品賞四作品

※推薦委員による推薦図書の中から、選定委員会にて受賞作が決定されます。

■受賞作品の発表および表彰式（平成27年11月頃、東京にて）

■表彰記念イベント（平成28年2月頃、東京にて）



古代歴史文化賞は、古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰することを通し、
国民の歴史文化への関心を高めることを目的として、平成25年に創設されました。

島根県／奈良県／三重県／和歌山県／宮崎県

第2回受賞作品

(平成26年10月31日発表)

大賞



市 大樹 著



『飛鳥の木簡—古代史の新たな解明』

近年出土の7世紀の木簡（文字の書かれた木札）のうち、特に重要な木簡を取り上げ、背景にある古代国家形成の歴史を読み解く。（中央公論新社）

準大賞



寺崎保広 著



『若い人に語る 奈良時代の歴史』

奈良時代の歴史について、時代を象徴するいくつかの話題を取り上げ、講義形式で平易に語った概説書。（吉川弘文館）

優秀作品



白石太一郎 著



『古墳からみた倭国の形成と展開』

古墳研究に長年携わってきた著者の研究成果の集大成。近年の研究状況も踏まえて国家形成過程を論じた作品。（敬文舎）

優秀作品



松木武彦 著



『未盗掘古墳と天皇陵古墳』

未盗掘古墳と天皇陵古墳を発掘することの意義をわかりやすく説いた作品。（小学館）

優秀作品



吉村武彦 著



『女帝の古代日本』

飛鳥・奈良時代に多く出現した女性天皇について、時代ごとにその性格を分析した作品。（岩波書店）



記念講演（1月31日、東京）



五名の受賞者・代理と各県知事・知事代理、選定委員長

平成二六年度 第二回表彰の概要

▼十月三十一日に開催された選定委員会で受賞作品が決定され、著者へ賞が贈呈されました。

▼一月三十一日には東京都内で受賞作品決定の記念講演や五県知事等によるパネルディスカッションがおこなわれました。

▼二月八日には島根県内で記念講演や受賞者等によるパネルディスカッションがおこなわれました。



パネルディスカッション（2月8日、島根）

第1回受賞作品

(平成25年9月9日発表)

受賞作品として古代歴史文化賞（大賞）1点と、みえ賞・なら賞・しまね賞・みやざき賞が各1点選定されました。

古代歴史文化賞



都出比呂志 著

『古代国家はいつ成立したか』

みえ賞



斎藤英喜 著

『古事記はいかに読まれてきたか』

なら賞



近江俊秀 著

『道が語る 日本古代史』

しまね賞



関 和彦 著

『古代に行った男ありけり』

みやざき賞



三浦佑之 著

『古事記を読みなおす』